



順風満帆ばっかりの人生なんてない

園長 野中 泉

6月から7月の、ほんの1か月弱の間に、アトムの保護者3人から別々の日に、別々な場所で、まったく同じ言葉を聞きました。「他の人は、みんなちゃんと（母としても、夫婦としても）やれているのに、私だけうまくできないし、他人に迷惑かけてる」。「つい、何日か前にも、デジャブみたいにおんなじ言葉聞いたわ」とその時にも言ったのですが、これは、この1か月の間だけでなく、アトムの園長になって6年。数えきれないほど聞いた言葉です。

もうひとつ、7月のある夜には、こんなことがありました。夜間保育に迎えに来たお母さんに「仕事忙しそうね」と何気なく話しかけたら「なんだか、もう疲れてしまって。仕事辞めようかどうしようか悩んでるんです」とみるみる両目に涙があふれました。「子どもの体調が悪いと保育園から迎えに呼ばれる。でも、職場には子育て中の仲間があまりいなくて、子どものせいで自分が職場に迷惑かけてる気になる。だけど、熱のある子を夫やおばあちゃんに預けて仕事に行く自分にも罪悪感がある。いつも何かに追われていて子どもにも優しくできなくて、仕事も子育ても中途半端な気がして辛い」。たぶん、彼女の言葉もまた、アトムの多くのお母さんたちが、「わかる、わかる」と共感する言葉ですよね。

いつだったかの懇談会では「芸能人のインスタとか見ると、自分もきれいにお化粧して部屋もきれいで、ニコニコしながら凝った料理とかつくるのに、なんで、私はこんな汚い部屋で髪振り乱して朝から怒鳴りまくってるんだろうって悲しくなる」と言ったお母さんがいて、その日参加していたみんなが「わかる、わかる」と大きく共感したことも思い出します。

私たちだって、結婚前も仕事と子育ての両立は大変だろうくらいの想像はしていました。でも、「ここまで」だとは知らなかった。だって、結婚前に想像した子育ての悩みなんて、2歳児くらいでイヤイヤ期がくるとか、中学生くらいになると反抗期があるらしいくらいのもの。将来の夫になる彼とも「子どもはのびのび育てたいよね」とか「息子にはスポーツをやらせたいね」なんて夢は語りあつたかもしれないし、今どきは「家事も、子育ても一緒に協力しよう」なんて話もしたかもしれない。でも、保育園に入ったら子どもの感染症でこんなに仕事を休まないといけないとまでは、育児本には書いてなかった。保育園にお迎えで呼ばれたら、夫と私どちが迎えに行くの？子育てと仕事の両立で仕事をセーブしたり辞めるかどうか悩むのは母親の方って誰が決めたの？などなど予想を超えた難題があることも、誰も教えてくれなかった。優しいお母さんになりたかったのに、気がつくと、ひっきりなしに我が子を怒鳴っている自分。「こんなはずじゃなかった」と呟いたことのある人は、たぶんひとりやふたりではないはずです。

『順風満帆』という言葉があります。帆船が順風（追い風）を満帆に受けてぐんぐんと進むように、物事が支障なく、予定通りに順調に進むことを言います。でも、当たり前のことですが、海上に追い風ばかりがふくわけではないように、順風満帆ばっかりの人生なんてありません。むしろ、どちらかといえば、横風や斜め風、逆風のときのほうが多く、ときどきは台風のような大嵐に遭遇することもありますよね。そんなときにどうするのか、どう考えるかです。小さい子どもがいれば、独身の時のようにバリバリは働けません。自分の思うように動かない相手（夫や子）と暮らしていれば計画どおりには家事は終わりません。それは、あたりまえです。だって、あの頃とは同じ「風」は吹いていないのです。そんなときに「帆」の向きを変えずに必死で向かい風に向かっていても疲れるばっかりで前には進みません。帆船の舵取りも、人生も、風に合わせて帆の向きを変えたり、時には走行をあきらめて港に停泊し、嵐の過ぎ去るのを待つもことも、実はとっても大事なことだと思うのです。